

第2章 中心市街地のめざす姿

2-1 「めざす姿」の設定に向けて

中心市街地は、先人たちの歩みを物語り今に魅力を伝える資源と、商業や業務機能を備える新しい資源が共存していることから、これまでの「歴史」とこれからの「未来」を同時に感じられる地域であると言えます。

これらの「歴史」と「未来」は、主に刈谷駅と刈谷市駅の2つの鉄道駅を核とした地域に広がっています。

今後、中心市街地は、これらの「歴史」と「未来」の2つの要素を際立たせるとともに両方の魅力を併せ持ち、地域住民にとっては愛着を感じ楽しく暮らし続けることのできる生活の場として、また来訪者にとっては楽しく魅力的な場として、それぞれの集いと憩いの場となるまちを目指す必要があると考えます。

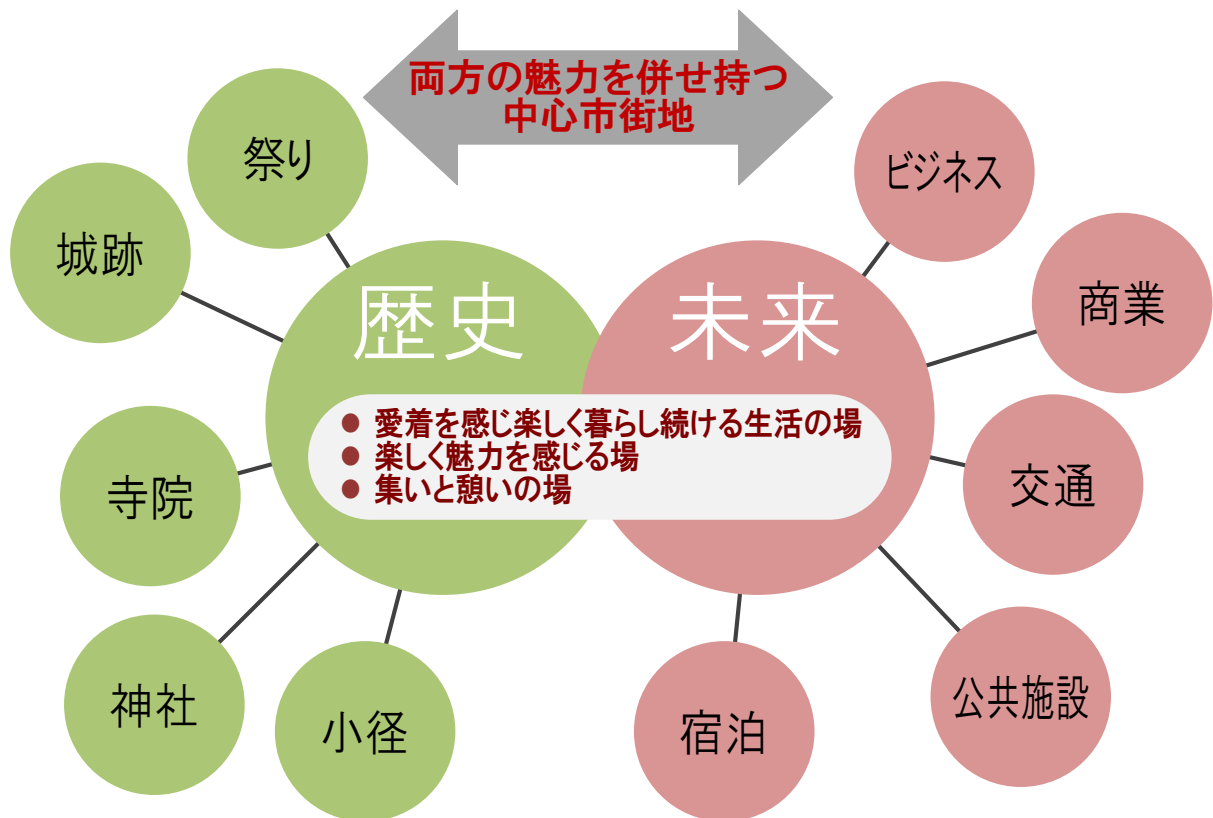


図 2-1 「めざす姿」の設定に向けた模式図

2-2 めざす姿

本計画では、中心市街地（まちなか）が「集い」「楽しみ」「憩い」の場（オアシス）となり、さらなる魅力の向上を図るため、めざす姿を以下に示します。

歴史と未来が輝く 刈谷まちなかオアシス

1 引き寄せられるまち

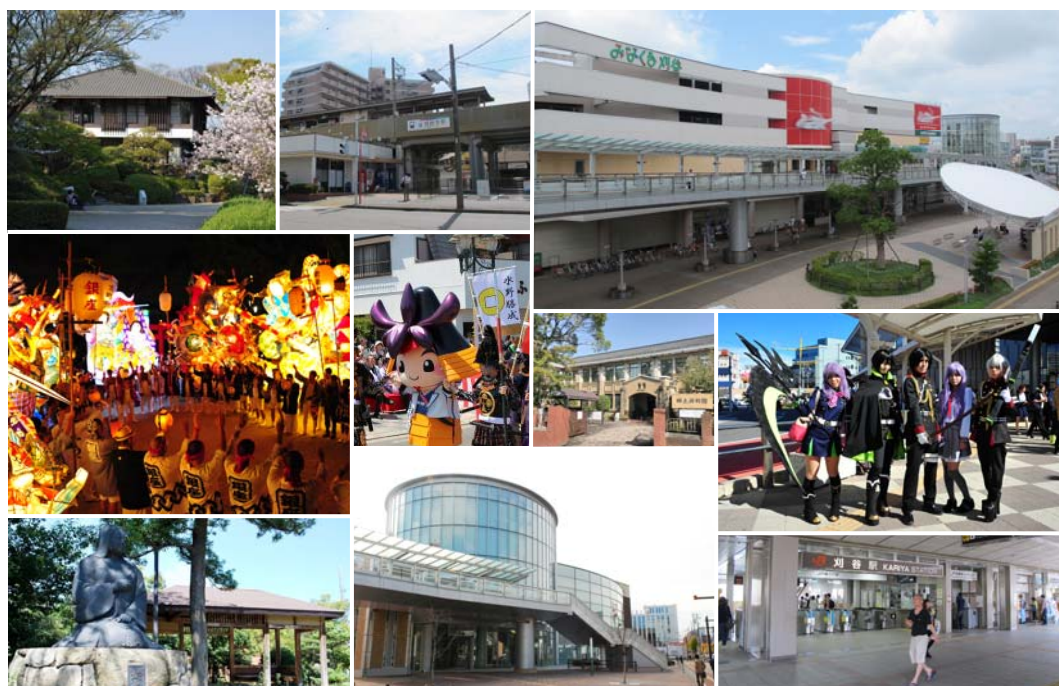
魅力的な活気とにぎわいがあり、市の「顔」にふさわしい洗練された都市施設を形成し、歩いて楽しい多くの人々が集うまち

2 便利さを享受できるまち

ゆとりと安らぎを感じられる住環境の形成と快適な暮らしを支える都市機能・生活機能が充実した、安心して暮らし続けられるまち

3 愛着を感じられるまち

貴重な歴史的資源に光をあて、それらを後世に受け継ぎ活用することにより、一層の魅力と親しみがあふれたまち



【刈谷の二大オアシスへ】

砂漠の中で水が湧き、樹木が生えている緑地のことを「オアシス」と言います。

また、「オアシス」という言葉は、そうした状況になぞらえて、人々の気持ちを和らげたり、癒したりしてくれる場所、憩いの場という意味で用いることもあります。

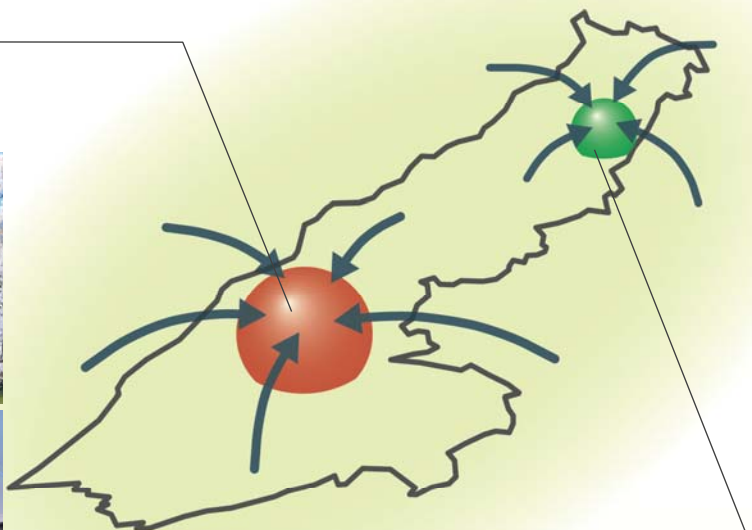
本市の「オアシス」と言えば、伊勢湾岸自動車道（新東名高速道路）の刈谷パーキングエリアと岩ヶ池公園が一体となり、複合商業施設、観覧車やゴーカート等の遊戯施設などがある「刈谷ハイウェイオアシス」が思い浮かびます。

本計画では、刈谷駅や刈谷市駅を核とした中心市街地を「刈谷まちなかオアシス」と位置付け、暮らす人や訪れる人たちを引き寄せ、魅了し、中心市街地が一層愛される場所となるよう様々な施策を展開していくことを示しています。

この「刈谷まちなかオアシス」と「刈谷ハイウェイオアシス」が、刈谷の「二大オアシス」となるような取組みを進めます。

刈谷まちなかオアシス

「集い」、「楽しみ」、心に安らぎを与えてくれる「憩い」の場。



刈谷ハイウェイオアシス

岩ヶ池公園と伊勢湾岸自動車道の刈谷パーキングエリアが隣り合っている複合施設。



刈谷の「二大オアシス」



2-3 まちなかマネジメント構想の概要

本計画は、2016（平成28）年度策定の「刈谷市まちなかマネジメント構想」（以下「構想」という。）を踏まえ、新たに中長期的な視点に立ったまちづくりに関する基本的な整備方針を示すこととしています。

この構想は、「刈谷駅北口周辺エリア」と「刈谷市駅～亀城公園周辺エリア」の2つのエリアを対象に、本計画の重要な位置付けとなる2つの核である刈谷駅周辺と刈谷市駅周辺において、それぞれ10年から20年先のまちの将来像とまちづくりの方向性を示しています。

このことから、中心市街地のまちづくりの方向性の考え方やゾーンを設定するにあたり、「構想」に示した「まちづくりの方向性」や「将来イメージ」を継承します。

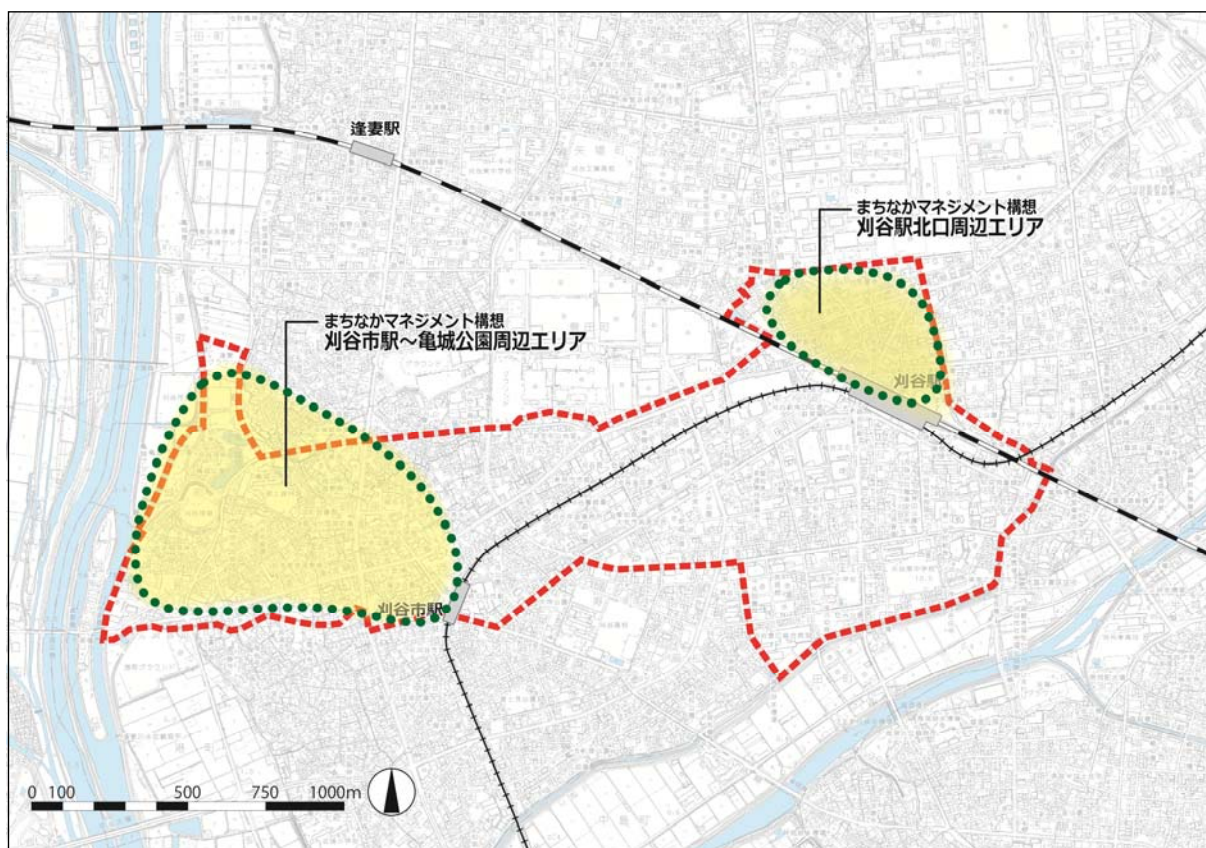


図 2-2 計画区域と構想の取組み位置

(1)刈谷駅北口周辺エリアの概要

①まちづくりの方向性

人を引き寄せる、回遊とにぎわいのあるまちづくり

②将来イメージ

1 歩行者が安全で快適に通行できるまち

歩行者が安全で快適に通行できる空間の整備を進め、回遊性のあるまちを目指します。

2 都市機能が充実した人を引き寄せるまち

交通結節点としての機能強化を図るとともに、魅力ある駅前空間の整備を進め、人を引き寄せるまちを目指します。

3 歩いて回遊できる、にぎわいのあるまち

憩いとにぎわいのある歩行空間の整備を進め、歩いて散策できるまちを目指します。

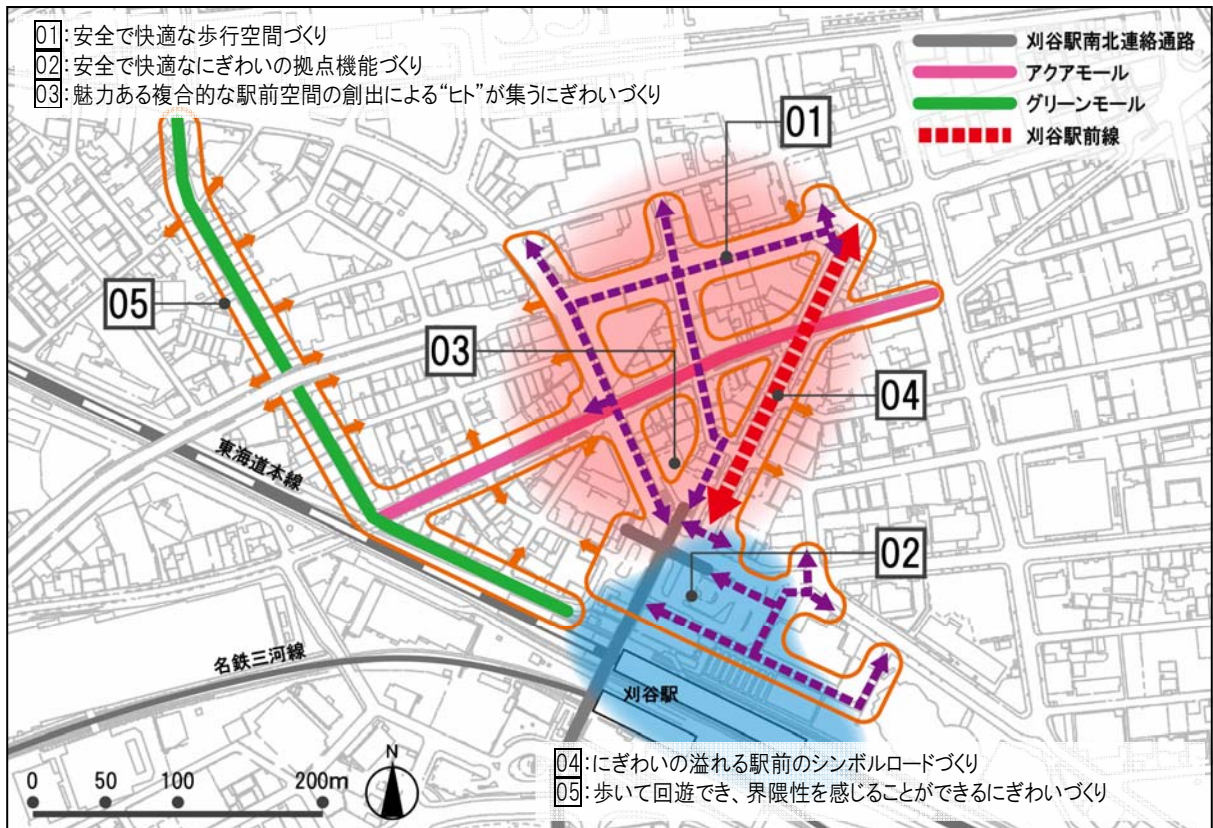


図 2-3 取組みの位置

(2)刈谷市駅～亀城公園周辺エリアの概要

①まちづくりの方向性

歴史と文化に触れる、交流と愛着の感じられるまちづくり

②将来イメージ

01 暮らしやすさと、活気に満ちたにぎわいと交流のあるまち

生活に必要な施設がバランスよく整備され、地域の伝統文化を感じることができる暮らしやすいまちを目指します。

02 地域と地域をつなぐ、歴史を感じることができるまち

地域固有の歴史的・文化的資源を保存・活用し、歩いて楽しむことができる趣きのあるまちを目指します。

03 歴史や文化に出会い、楽しむことができる魅力あふれるまち

歴史や文化を次世代へ伝えるとともに、それらを学び、楽しむことができる魅力あるまちを目指します。

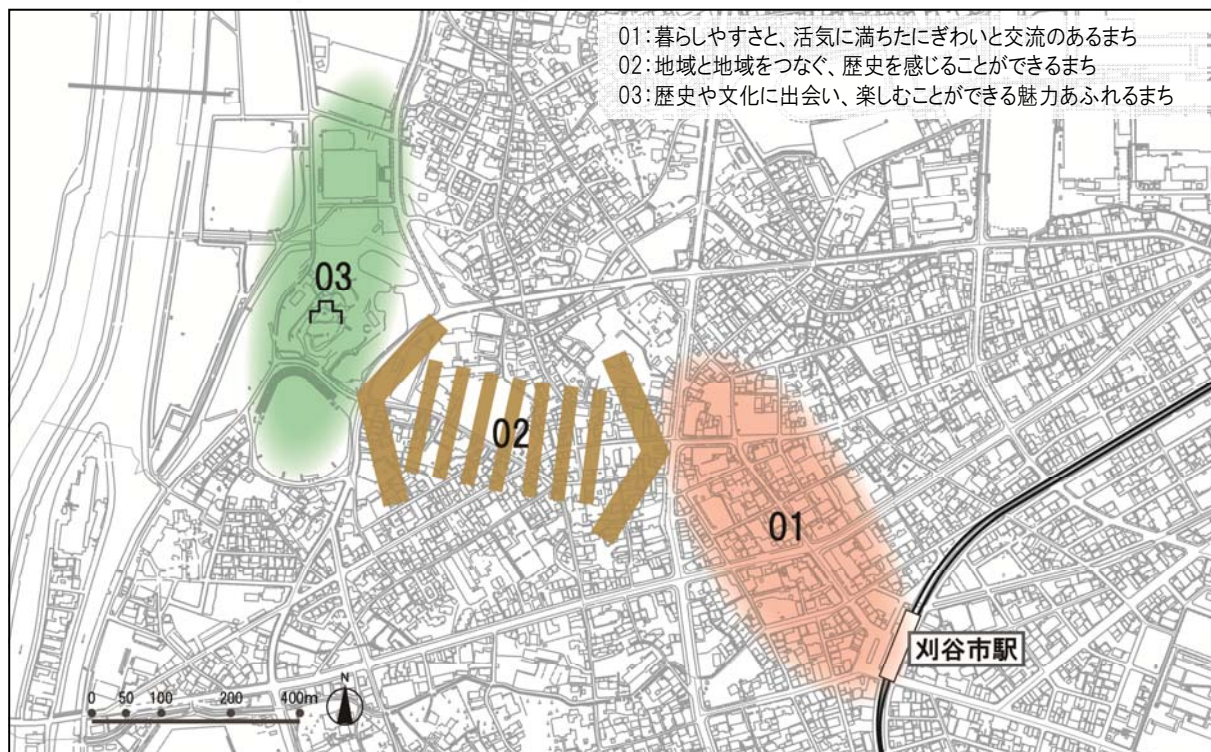


図 2-4 取組みの位置

2-4 中心市街地のまちづくりの方向性

(1)ゾーニングの考え方

前章の「中心市街地の特性」である4つの視点と前項の構想のまちづくりの方向性を踏まえると、計画区域は、鉄道駅を中心として商業、公共公益施設が多数分布する「刈谷駅周辺地域」

多彩な歴史的・文化的資源が集まる「刈谷市駅・亀城公園周辺地域」

時代の移り変わりの中で変化し、周囲の商業、公共公益施設の分布とともに暮らし良い環境が形成されてきた「2つの地域をつなぐ中間地域」

と大きく3つの地域に区分することができるため、それぞれの地域特性を生かすゾーニングの考え方を右の図に示します。

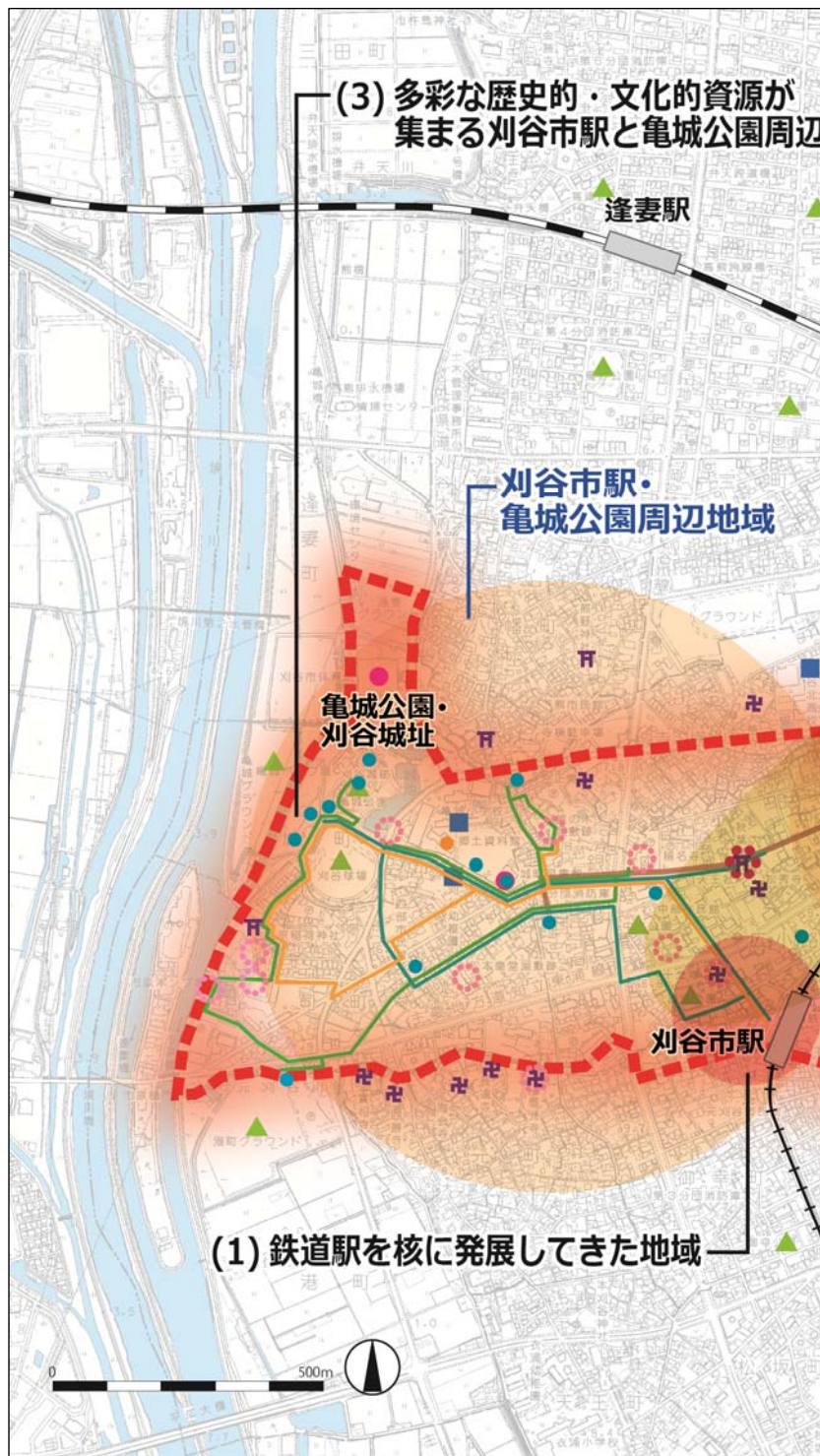
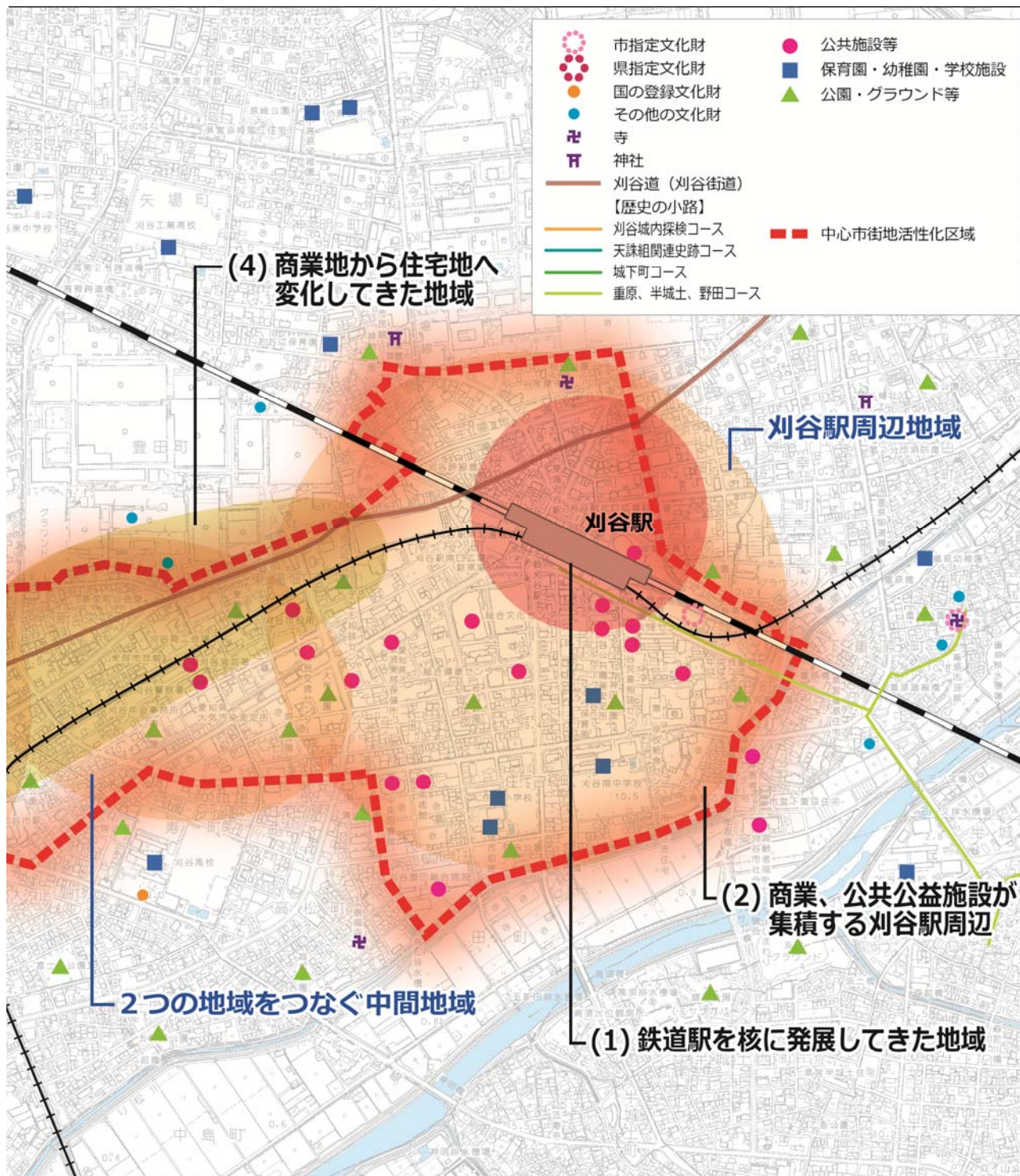


図 2-5 ゾーニングの考え方



(2)ゾーンの設定

前項の「ゾーニングの考え方」に基づき、計画区域におけるゾーンの設定を行います。

一つ目は、刈谷駅を中心に、北口と南口の一带を捉えた地域を「都心交流ゾーン」と設定し、「人を引き寄せる、回遊とにぎわいのあるまちづくり」を目指します。

なお、当ゾーンには構想の「刈谷駅北口周辺エリア」を包含しています。

二つ目は、2駅をつなぐ中間及び「都心交流ゾーン」の南側の地域を「生活交流ゾーン」と設定し、「便利なまちなかに住まう、歩いて暮らせるまちづくり」を目指します。

三つ目は、刈谷市駅から亀城公園周辺を捉えた地域を「歴史文化交流ゾーン」と設定し、「歴史と文化に触れる、交流と愛着の感じられるまちづくり」を目指します。

なお、当ゾーンには構想の「刈谷市駅～亀城公園周辺エリア」を包含しています。

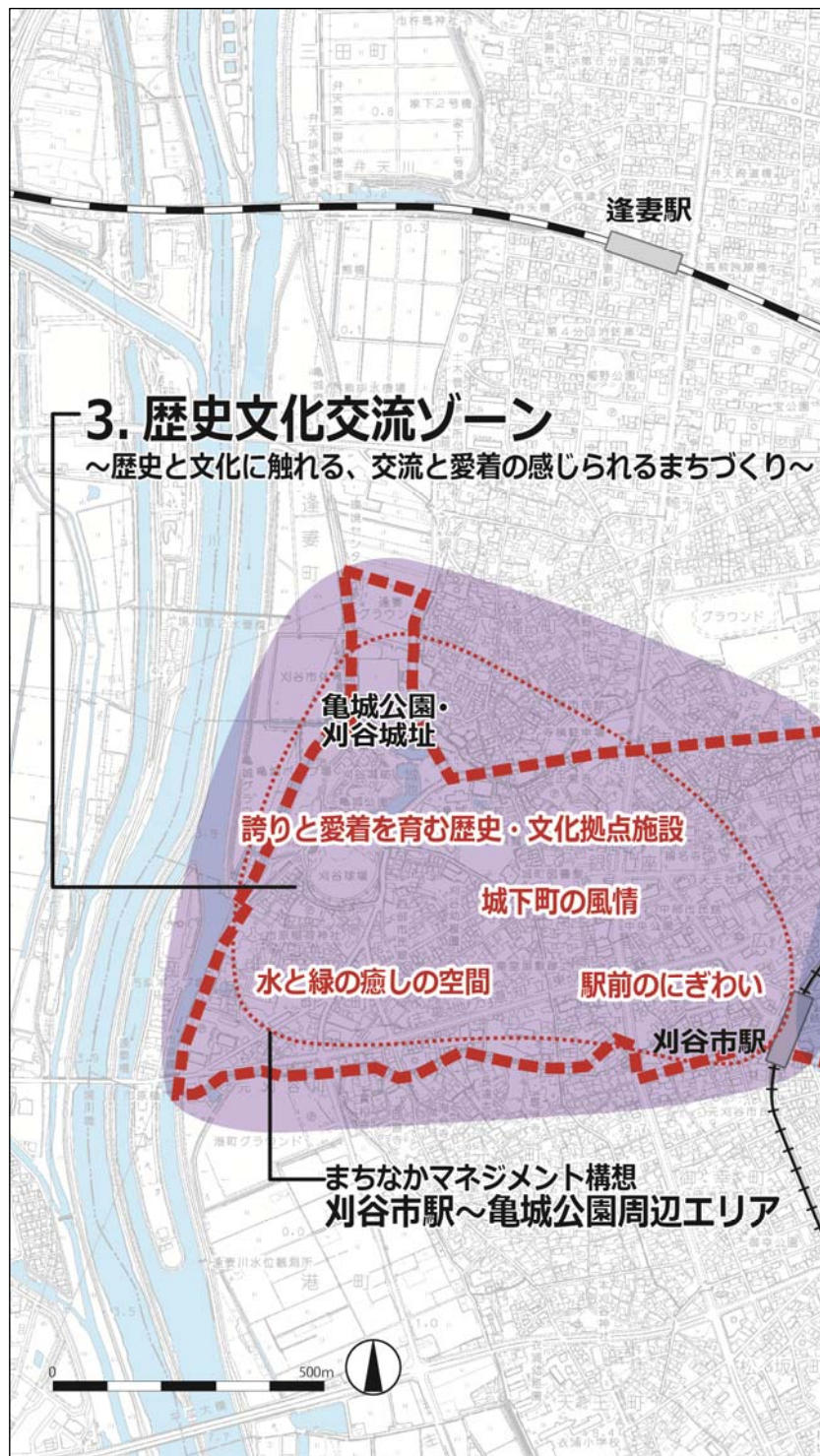


図 2-6 ゾーンの設定

- 都心交流ゾーン ～人を引き寄せる、回遊とにぎわいのあるまちづくり～
- 生活交流ゾーン ～便利なまちなかに住まう、歩いて暮らせるまちづくり～
- 歴史文化交流ゾーン ～歴史と文化に触れる、交流と愛着の感じられるまちづくり～

